

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年10月5日  
枚方市立藤阪小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

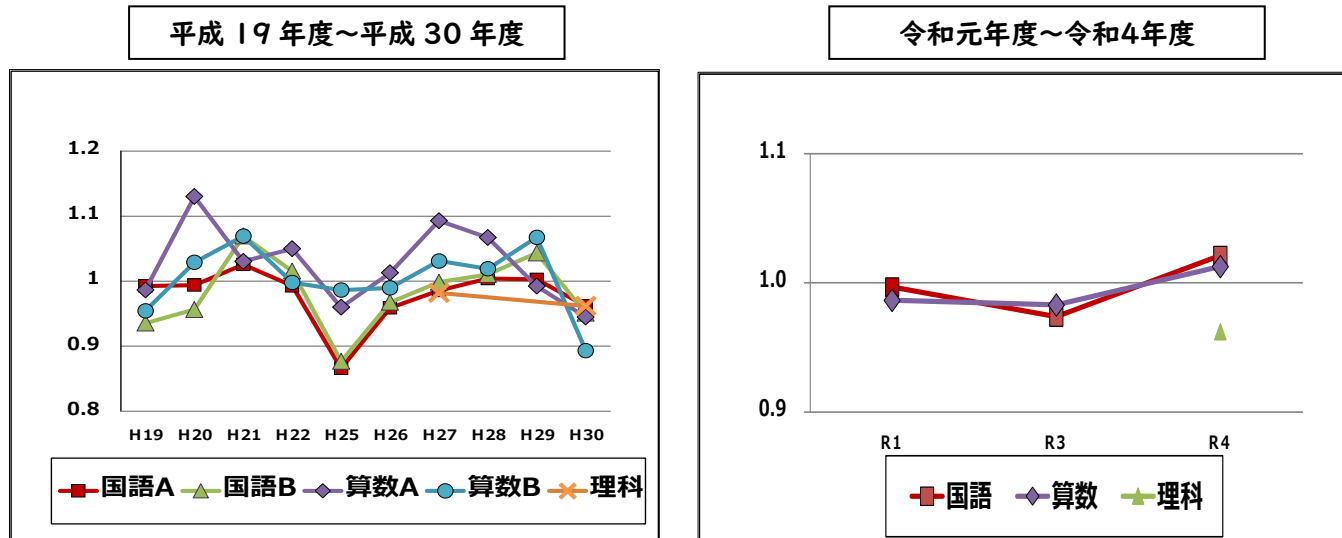
## 【全体概要】

※調査結果について  
教科や出題範囲が限られていることから、  
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

## 学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。

### 全国の平均正答率を1とした経年比較



※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、未実施の為、掲載していません。

## <学力調査結果の概要>

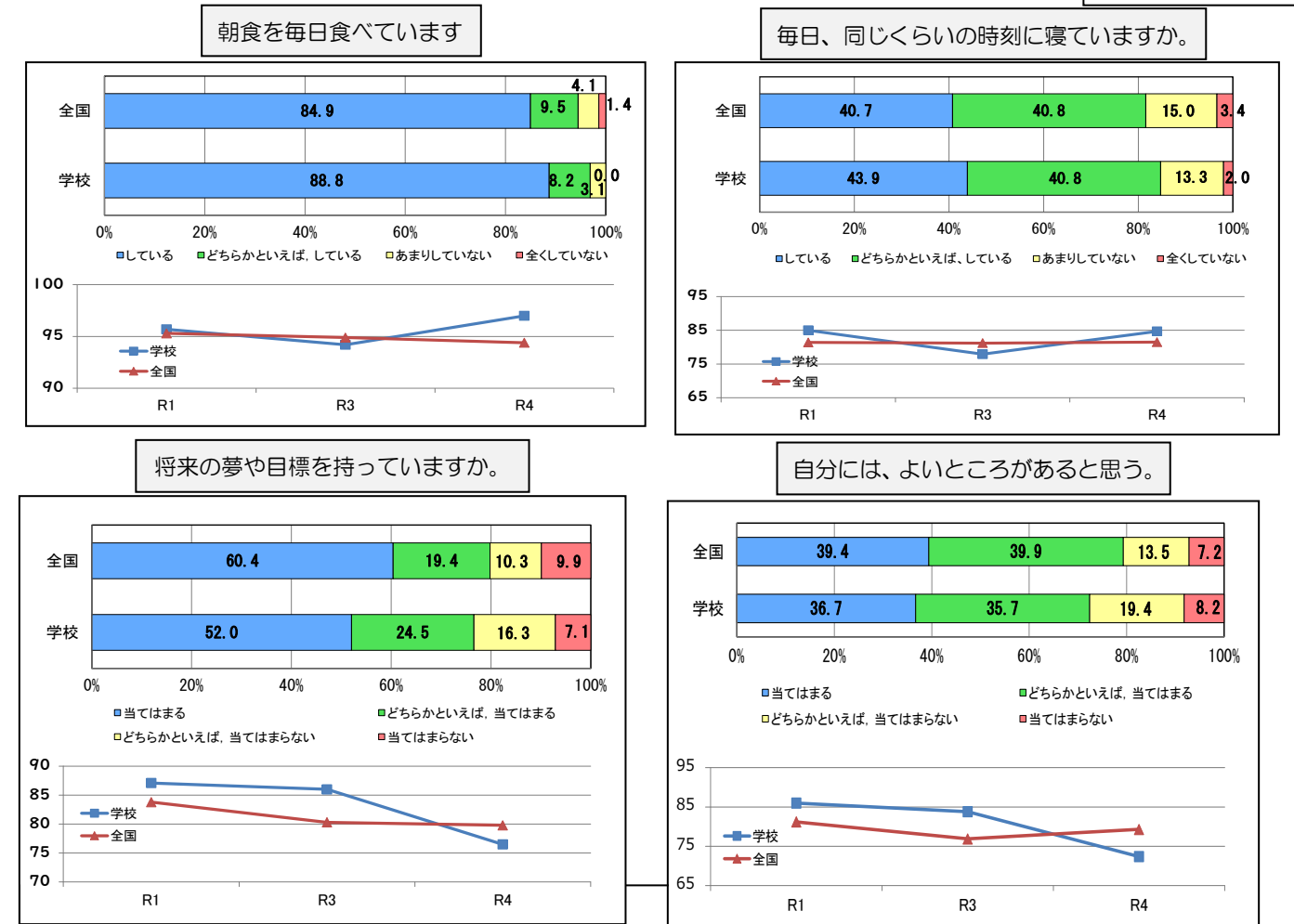
- 国語について  
→全国平均を少し上回っている。  
昨年度と同じく、条件を満たして文章にまとめる力が弱い傾向が見られる。今後の課題である。
- 算数について  
→全国平均を少し上回っている。  
昨年度と同じく、グラフや表を読み解く力が弱い傾向がある。今後の課題である。
- 理科について  
→全国平均を大きく下回っている。  
質問の形に慣れていなくて回答時間が足らなかった児童が多かったようで、理解できているのに回答に結び付かないという課題が残った。

## 質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。  
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国  
■ 本校



## <質問紙調査結果の概要>

- ・日常生活の基本である「朝食を毎日食べる」「毎日ほぼ同じ時間に寝る」という基本的な生活習慣がほぼ安定的になり、今年度は全国平均を若干上回っている。
- ・「将来の夢や目標」「自分のよいところ」という自己肯定につながる心の持ちようが全国平均を下回っており、低学年時より様々な成功体験を積むような取り組みを学校体制で展開していくことが今後の課題である。

## まとめ

- ・本校の過去15年間の全国学力・学習状況調査結果の推移をみると、年度によりかなりバラツキがあることが分かる。ただ、子どもは年により家庭環境や学力的条件等の様々な要因で差異があり一概には比較できない。また学校の教職員体制にも大きく影響を受けてきたものと考えられる。ここ数年、学力状況は決して良くはないが、子どもたちは大変落ち着いており、どの学年も授業規律がほぼ保たれ、教職員体制も安定していることから、今後は私共学校の姿勢如何でまだまだ伸びしろはあるものと考えられる。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

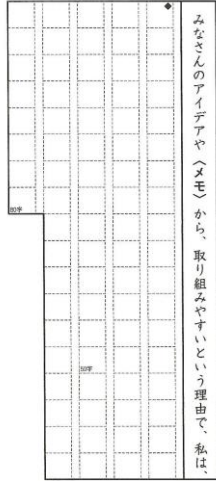
【詳細について】 教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで  
 でどのように話すか書く。



四 同さんは、「話し合いの様子」の「部」の  で、「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで話そうとしています。あなたが同さんなら、どのように話しますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）  
 ○ 「ごみ拾い」「か」「花植え」かのどちらかを選び、その問題点についての解決方法を考え、書くこと。  
 ○ 書き出しの言葉に続けて、五十字以上、八十字以内にとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、言葉にはふくまない。  
 ※本文の字幅は下書き用のままで、使わなくてもかまいません。解答は、縦書きで行ってください。また、文の途中から書き止めては、どのように行き止めますか、とどのようになっていますか、その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

みなさんのアイデアや（メモ）から、取り組みやすいという理由で、私は、

	正答率	無解答率
本校	52.2	0.0
全国	47.7	3.0

（考察）  
 ・学校生活をイメージしながら当番制を取り入れるなど、解決方法を明確に書くことができています。  
 ・「続けることが難しい」という点が欠けている回答もあり、本文から言葉や文を取り上げて書く力について課題も見られる。

<算数>

成果や課題があった設問

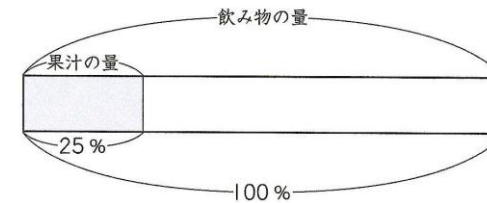
【成果】

墨汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、墨汁の量の割合を分数で表す。

2

果汁入りの飲み物について考えます。

- (1) オレンジの果汁が25%ふくまれている飲み物があります。飲み物の量をもとにしたときの、果汁の量の割合を分数で表しましょう。



	正答率	無解答率
本校	77.8	4.4
全国	71.1	3.9

（考察）  
 ・分数で表すことは理解できているが、100/25 や他の水分量（75%分）を求めていたり、約分が正しくできていない回答がある。  
 ・25%の割合を分数で正しく表すことができています。

【課題】

【文章2】の文中 部ウを、漢字を使って書き直す。(したしむ)

三 鳥谷さんは、「文章2」を読み、習っている漢字がひらがなになっていた——部ア、イ、ウを漢字に書き直すことにしました。

次の——部アを漢字でいねいに書きましょう。  
 南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を知ってほしいという思いをもち、正しく使うことができる学級の様子をアアアアとして、各学級にしようかいしをす。

次の——部イを漢字でいねいに書きましょう。  
 として、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかつたことを、いねいにしました。

次の——部ウを漢字でいねいに書きましょう。  
 運動が苦手な人もウしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいししています。

	正答率	無解答率
本校	61.1	21.1
全国	67.1	14.7

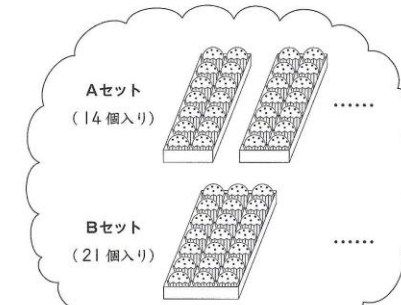
（考察）  
 ・「親しむ」という表現に慣れていないと考えられる。  
 ・読書に力を注ぎ、様々な文字・言葉・文章に触れる機会を積み重ね、文章を書く時にはそれらを積極的に使って書く指導が必要だと考える。

【課題】

14 と 21の最小公倍数を求めろ。

あいりさんたちは、AセットとBセットのカップケーキを同じ個数にそろえたとき、どちらのほうの方が安くなるのかについて考えています。

- (2) まず、あいりさんは、AセットとBセットをそれぞれ何箱か買ったとして、考えることにしました。



あいり カップケーキの個数を、14と21の最小公倍数にそろえて考えます。

14と21の最小公倍数を書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	63.3	4.4
全国	72.2	3.0

（考察）  
 ・倍数と約数の知識が混同している児童がおり、復習して再定着する必要がある。

<理科>





成果や課題があった設問

【成果】

資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物から二次元の表のどこにあてはまるかを選ぶ。

9月になり、ひろしさんたちは、ほかにも調べていたこん虫を下の表のようにいくつかのグループに分けました。

ひろしさん  
主な食べ物については、「植物」と「動物」で分けよう。

（こん虫の育ち方と主な食べ物）	
育ち方	
さなぎになる	さなぎにならない
1 モンシロチョウ  幼虫：キャベツの葉など 成虫：花の蜜など	2 シヨウリョウバウバ  幼虫：ススキの葉など 成虫：ススキの葉など
3 ゲンゴロウ  幼虫：イトミミズなど 成虫：イトミミズなど	4 シオカタンボ  幼虫：イトミミズなど 成虫：ハエなど
植物	動物

（資料）  
カブトムシの育ち方  
①卵 → ②さなぎ → ③成虫  
主な食べ物：食べない、落ち葉など、食べない、木のしる（樹液）など

（注）ひろしさんたちは、さらに調べていたこん虫を加えているときに、次のことになりました。

【気づいたこと】  
・幼虫のときにも、成虫のときにも、植物を食べるこん虫がいた。  
・幼虫のときにも、成虫のときにも、動物を食べるこん虫がいた。  
・表のこん虫以外で、成虫のときに植物も動物も食べるこん虫がいる。

ひろしさんは、【気づいたこと】をもとに、【問題】を見つけ、解決していくことになりました。どのような【問題】を見つけたか、下の 1 から 4 までの中から最も適切なものを 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 表のこん虫以外で、さなぎになるこん虫は、いるのだろうか。
- モンシロチョウの幼虫は、キャベツの葉を食べるのだろうか。
- 表のこん虫以外で、幼虫のときに植物も動物も食べるこん虫は、いるのだろうか。
- なぜ、ゲンゴロウの幼虫や成虫は、動物を食べるのだろうか。

	正答率	無解答率
本校	80.0	0.0
全国	76.1	0.7

（考察）

・「さなぎになる」「植物を食べる」の 2 点で、1 を正しく選んでいる。

・育ち方でさなぎにならないと回答しているものが、正答の次に多い。さなぎの形が成虫と似ているので成虫と判断したと考えられる。

【課題】

水溶液の凍り方について、実験の結果を基にそれぞれの水溶液が凍る温度を見出し、問題に対するまとめを選ぶ。

つくった水よう液で、次のような実験をしました。

【方法】  
①水、砂糖水、食塩水  
②水、砂糖水、食塩水をそれぞれ、試験管に同じ量入れる。  
③冷やすための物に、①を入れて冷やす。ときどき、試験管をとり出し、温度をようすを観察する。

実験の【結果】水、砂糖水、食塩水の「こおり始めの温度」と「すべてこおった温度」は、下のようになりました。

（水、砂糖水、食塩水を冷やした温度）		
こおり始めた温度	すべてこおった温度	
水	0℃	0℃
砂糖水	-1℃	-1℃
食塩水	-6℃	-6℃

（注）はるとさんは、実験したあと、【問題】、【予想】を確認しました。

【問題】  
砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低いのだろうか。

【予想】（はるとさんの予想）  
砂糖水や食塩水は、こおるの「氷の部分」から、水がすべてこおる温度と同じ0℃で、すべてこおると思う。

この【結果】からは、わたしの【予想】がもがっていることがわかったよ。【結果】の（ア）ということから考えます。【問題】に対するまとめは、（イ）といえるね。

はるとさんのことばの（ア）の中からあてはまるものを、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

また、（イ）の中にあてはまるものを、下の 5 から 8 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

（ア）  
1 水は0℃、砂糖水は-1℃、食塩水は-6℃ですべてこおった  
2 水、砂糖水、食塩水は、冷やすとすべてこおった  
3 すべてこおるまでの時間は、砂糖水より食塩水が長かった  
4 水、砂糖水、食塩水は、0℃のときにすべてこおった

（イ）  
5 砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度と同じである  
6 砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低い  
7 食塩水がすべてこおる温度は、砂糖水がすべてこおる温度より低い  
8 食塩水だけが、水がすべてこおる温度より低い温度ですべてこおる

	正答率	無解答率
本校	55.6	1.1
全国	62.8	1.0

（考察）

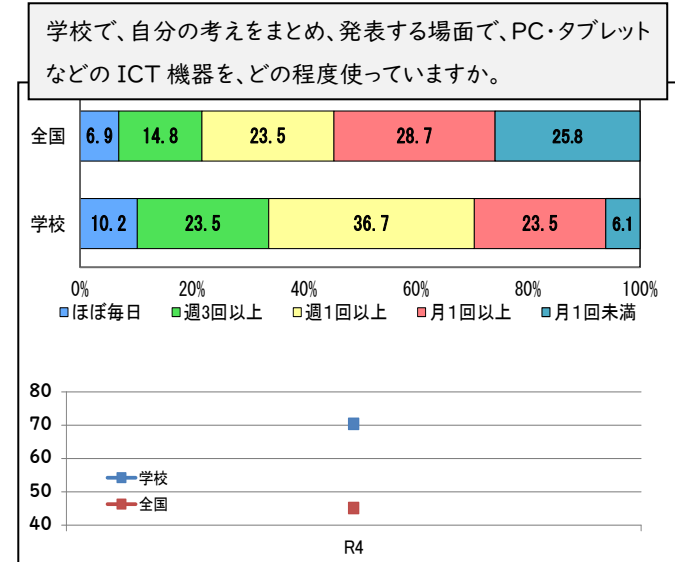
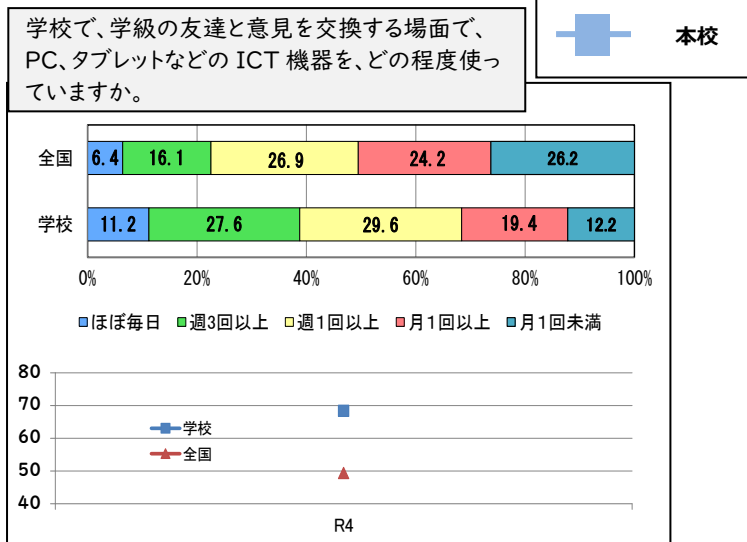
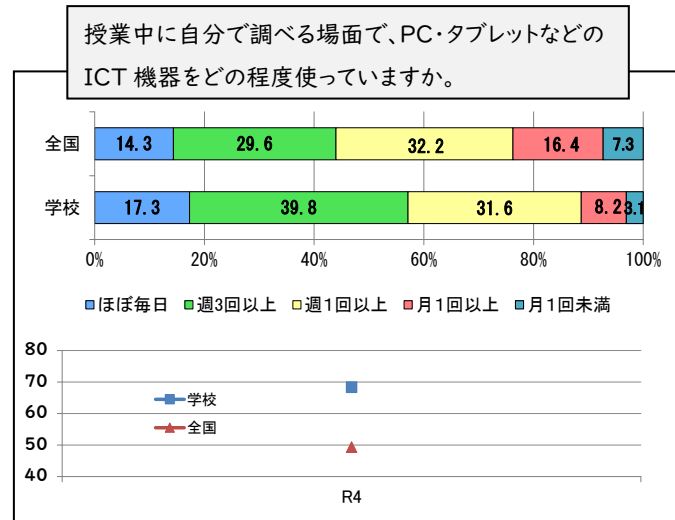
・（ア）については結果から「凍る温度」について分かっているが、凍るまでの時間についての記述を選んでいる回答が多かった。結果から分かることを文章で表した時にその内容を理解する力に課題が見られる。

・（イ）については問題の内容と対応していない回答を選んでいる。実験の目的を理解する力に課題がある。

# 質問紙に関する調査

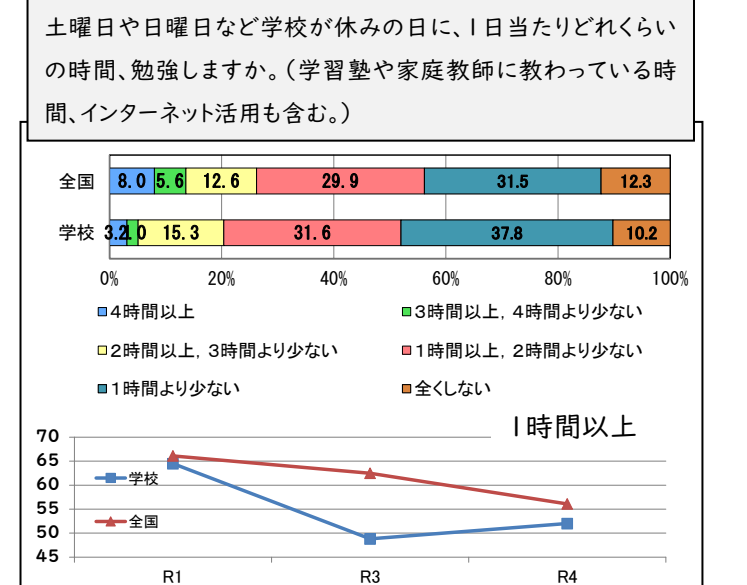
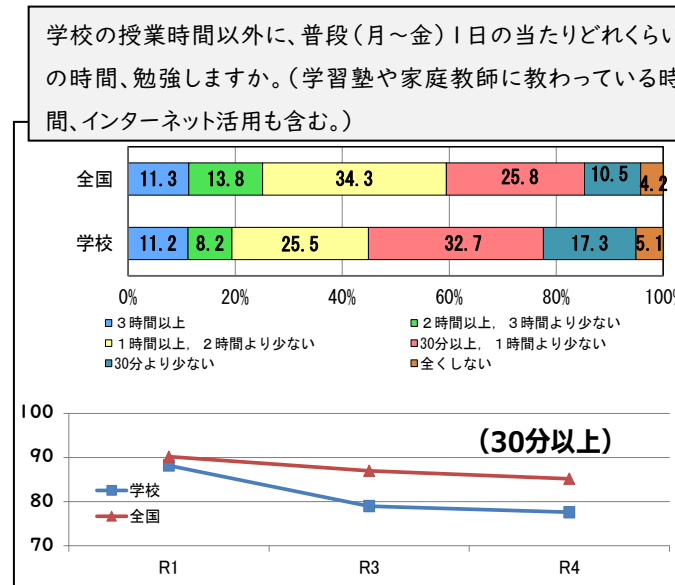
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。  
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

## 【成果のあった項目】

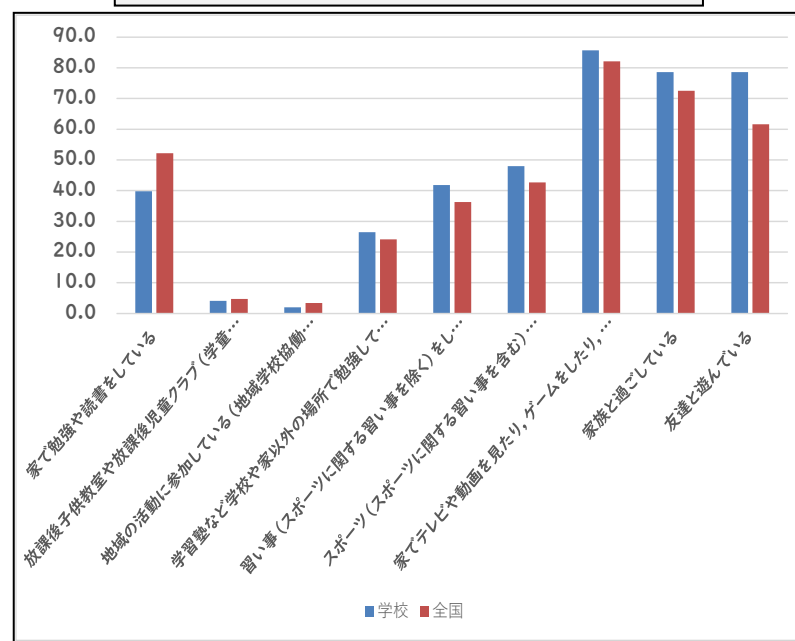


(考察)  
 コロナ禍での3年目を迎え、GIGAスクール構想が前倒しになり、一気にICT教育に舵を切ってきた。本校児童においても一人一台のタブレット使用頻度については全国平均を大きく上回っている。今後は教職員のICT活用能力を更に高め、日常の授業においてタブレットを使いこなす状態まで高めていくことが喫緊の課題であると考えます。

## 【課題が残った項目】



## 放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか。



(考察)  
 ・平日、土日とも勉強時間が全体的に少ないことが分かる。特に、平日の30分以上1時間未満、土日の1時間以上2時間以内が全国平均よりも下回っている。  
 ・平日、土日に多くの時間を費やす項目から、スポーツや習い事、テレビ・動画視聴、ゲームをする時間が全国平均を上回っている。

## 分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

- (1) 授業改善について
- ・校内研究テーマに沿って、実践・交流に取り組む。
  - ・テーマに沿って、各学年ごとに年間指導計画をもとに1学期の進捗状況を確認し、進めていく。
  - ・全国学力・学習状況調査の問題分析を踏まえ、小学校と中学校の学習状況について現状と課題に応じて、児童につけさせたい力について具体的な取り組みを実践し、学力向上委員会で報告・交流する。
  - ・12月に、学期末テスト及びアンケートを実施し、集計・分析後、検証結果をもとに3学期に向けた改善点の協議、取組み策を決定する。
  - ・学年会・教科会で、評価規準・基準を確認。パフォーマンス課題の内容について協議、作成する。
  - ・「Hirakata 授業スタンダード」(第2ステージ)に基づき、「思考を促すめあて」を提示し、「個別の気づきや新たな課題を引き出す振り返り」の時間を確保する。
  - ・単元計画を作成する際に、つけたい力を明確にして授業を行う。
  - ・ICT教育モデルに基づき、Communication(意思伝達)に注目しながら進め、自分の考えを相手に分かりやすく効果的に伝えるツールとしてタブレットを活用する。
  - ・「協働的な学び」の効果を高めるためには、子どもたちが安心して自分の考えや気持ちを交流することができ、学級が様々な意見を許容するあたたかさをもっている必要があるため、学級経営についての研修を年間1回実施する。学級経営、授業改善の両方の歯車を上手く回転させることで、学習集団を高め、学びの質をさらに向上させる。
- (2) 家庭学習について
- ・児童一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材・学習時間等の柔軟な提供・設定を行う。
  - ・個に寄り添うフィードバックを充実させる。
  - ・子どもたちが主体的に、自らの興味・関心、自分にあった方法(メディア等)、課題の難易度等を自己決定する場面を幅広く設定する。
  - ・「やってみる・振り返る・再考する」といった試行錯誤する学習過程を意図的に組み込み、一人一人の自己調整力を高めていく。